

助産雑誌 Back Number

★バックナンバーのお取り扱いについて

- ① 2023年3号以降の雑誌は、医学書院受注センター(TEL: 03-3817-5666)にて承ります。
- ② それ以前の号についてのご注文や在庫のご照会などは、下記をお願いいたします。
株式会社東亜ブック 〒178-0061 東京都練馬区大泉学園町 5-27-11
TEL: 03-5947-4781 FAX: 03-3923-4539



2025年2号(3-4月号)

特集

「わたしのお産」はみんな違う
それぞれの背景、経験、想いを聞いた
ロングインタビュー集

さまざまな背景を持つ6人の女性に、自身の妊娠・出産について語っていただきました。どのようなお産を目指せばいいのか、どのように関わればいいのか、ヒントは全て女性たちの言葉の中にあるはずです。



2025年1号(1-2月号)

特集

胎児医療を知る

出生前診断の“その後”と助産師の役割

現状では限定的とはいえ、出生前に異常が見つかった胎児にも治療の選択肢があります。一方で、子宮内胎児死亡や妊娠中断のケースも少なくありません。「胎児」を取り巻く状況の最先端を知り、その時母子と共にいる助産師の役割を考えます。



2024年6号(11-12月号)

特集

「私のからだは私のもの」から始める
初期中絶のケア

本特集では、議論を整理するために妊娠初期の人工妊娠中絶に限定し、ケアの軸として「からだの自己決定権」を中心に置くことを提案します。助産師を含む日本の女性たちが置かれている現状を知り、「私のからだ」について一緒に考えてみませんか。



2024年5号(9-10月号)

特集

助産師のための
LGBTQ+/SOGI 入門

性と生殖に関わる専門職である助産師だからこそ知っておきたい LGBTQ+/SOGI に関する知識と、助産師としての関わりについて、最初の一步を学べる特集です。当事者の産み育てや人生を応援するために、できることがきっとあるはずです。



2024年4号(7-8月号)

特集

令和のお父さんのリアル
男性目線で考える父親支援

育休を取得する父親が急増し、「イクメン」という言葉が過去のものになりつつあります。父親を「支援の受け手」とするために、今、何が求められているのでしょうか。男性目線で考えるとともに、男性たちによる父親支援の取り組みを紹介します。



2024年3号(5-6月号)

特集

保険適用の議論の前に知っておきたい
出産とお金のはなし

出産費用の保険適用が議論されていますが、そもそも出産にかかるお金はどうやって決まっているかご存じですか？ 日本の出産費用のしくみと歴史から、海外の出産費用やケアシステム、助産師の働き方までを概観する特集です。

2024年 特集

2号(3-4月号) 助産所でも診療所でも病院でも ここまでできる産後ケア

1号(1-2月号) データでみる「助産所のお産」 嘱託医療機関との連携で実現する安全性と継続性

2023年 特集

6号(11-12月号) 新世代がつくるお産の場 わたしたちの助産院

5号(9-10月号) HTLV-1 母子感染予防の新方針

4号(7-8月号) 産む人を中心にした帝王切開

3号(5-6月号) 妊娠中の体重管理と栄養

2号(3-4月号) チームで取り組む周産期メンタルヘルス